

ほしいもバトル in おもてまち商店街

分野：課外活動、地域交流

代表者：工学部機械システム工学科 1年 冨田 雄介

連携先

(株) オセヤー級建築事務所
藤田 康広さん

顧問教員

清水 恵美子 (全学教育機構・准教授)

参加者

冨田 雄介 (工学部機械システム工学科 1年)
水上 雄介 (農学部地域総合農学科 1年)
井上 智敦 (農学部地域総合農学科 1年)
佐藤 紗耶 (農学部地域総合農学科 1年)

プロジェクトの概要

●背景

本プロジェクトは、地域に出てまちづくりを実践する PBL I でメンバーが考案した「ほしいもバトル in おもてまち商店街」を実行するために立ち上げられた。PBL I は、ひたちなか市勝田駅前の表町商店街を舞台に、学生を呼び込むためのアイデアを考える授業だった。私たちのチーム(佐藤、冨田、水上のさとうゆうすけチーム)は、商店街の有線放送の活用という課題に対してのアイデアとして、レシピコンテストを行い、告知や干し芋をテーマにした番組などを有線放送で流したいと考えた。

●目的

ひたちなか市での生産量が全国シェアの半分以上を占める干し芋を用いたレシピコンテストを行い、「干し芋の聖地ひたちなか」への関心を強めてもらうことが本プロジェクトの大きな目的である。グランプリレシピを決定する決勝戦は、表町商店街で3か月毎に開催されているイベント、勝田 TAMARIBA 横丁内で実際に提供してもらうグルメコンテストを想定していた。募集枠として学生枠、飲食店枠、一般枠を設定し、幅広いジャンルのレシピが考案されるのを期待した。特に学生枠の募集を強化し、学生やその友人、家族に勝田へ来てもらい、親しんでももらうことも目的だった。優秀作品は地域の飲食店での限定メニュー化なども行い、あわよくば新しいご当地グルメになればと考えていた。

ほしいも Rename への転針後は、気軽に参加しやすい企画を通して学生にひたちなか市、干し芋に興味を持ってもらうことが目的である。アンケート調査は、私たちができる範囲で拡散したときにどれだけの反応が得られるかを把握し、企画実行時の目安にするために行った。企画を行う前に外部の意見や反応を一度確認するための試みでもあった。

●活動内容

週 2 回程度の昼休みのミーティングを基本として、活動した。そのほか放課後や休日

に現地に赴いたり、地域の方々と対話したりして問題を抽出した。

始めは企画書づくりのための事前調査などに取り組んだ。途中からは現段階での企画実行が困難であることが分かり方針を転換し、ほしいも Rename に取り組んだ。ほしいも Rename に取り組んだきっかけは連携先の藤田さんをはじめとした地域の方々と対話の中にあった。「より大学生らしい発想の企画を行ったほうが周囲の興味を引く(レシコンテストは商工会議所などが行う仕事)」「ハードルが高い企画に挑戦する前に、比較的手軽にできることに取り組み、基盤・実績を作った方が良い」などのアドバイスは、プロジェクトの本題を一時保留するという決断に踏み切らせた。



ミーティングの様子

プロジェクトの成果報告

●成果

チーム結成から現在までの活動とその成果について。

〈活動の基盤づくり〉

私たちは継続して活動を行うため、時間をかけて目標や方針を明確化し、学生団体「ぴたっとひたちなか(ぴたちなか)」を組織した。はじめに、ひたちなか市を舞台に活動する既存のサークルに加入した。活動の幅と

地域での人脈を広げることができ、様々な人に意見を伺えるようになった。ぴたっとひたちなかでは、干し芋に限らず、あまり知られていない地域の魅力やその現状を調査し、地域内外をつなぎ、連携して現状を改善することを目指している。たびたび現地に赴き、地域の方々と対話などから地域での問題を探った。

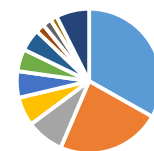
地域の人々と学生がつながり、高め合う場を創り出し、 協働して地域の魅力を発信する。		
挑戦できる場 <small>どんなに突飛な意見やアイデアでも受け入れる！失敗しようが何でも楽しんで取り組む！</small>	つながる場 <small>地域内外の活動、団体が協働して、新たな魅力を生む！</small>	磨き合う場 <small>客観的な立場で地域を評価するとともに、地元住民をはじめ、学生、企業がお互いに切磋琢磨する！</small>

私たちの掲げる行動指針

〈干し芋への意識調査の実施〉

Google フォームを用い、SNS 上でアンケート調査を行った。回答期間を 12 月 25 日～12 月 31 日としたところ、10 代から 40 代以上までの幅広い年齢層から 100 件の回答があった。ユニークな回答が多かった。アンケート調査の結果の一部をここに掲載する。

「干し芋」という名前のイメージ



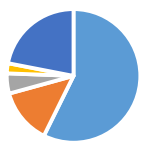
- おいしそう
- 高級感がある
- 香りがいい
- 憎たらしい
- 田舎くさい
- ダサい
- 楽しい
- その他
- かわいい
- エモイ
- 映える

干し芋といえどどこか



■茨城県 ■鹿児島県 ■静岡県 ■千葉県 ■その他

干し芋といえど茨城県のどこか



■ひたちなか市 ■水戸市 ■東海村
■那珂市 ■その他

干し芋は好きか



■好き ■嫌い

干し芋を食べたいか



■食べたい ■食べたくない

〈「ほしいもバトル in おもてまち商店街」
企画書作成へ向けた行動〉

本プロジェクトを実行可能な状態に計画し直し、現実的な企画書を作成するために「ハコ・モノ・ヒト」の確保に着手した。協力者を募るため、干し芋の生産者や問屋の

方々を訪ねてのヒアリング調査を行った。この活動は今後ほしいも Rename を計画する際にも役立った。結果として、決勝戦開催のための会場や調理場の確保、有線放送用の番組作り、各教育機関へのチラシ配布の日程調整、関係者集めなどの数々の難題が重なり、本プロジェクトは一時保留することになった。



第36回 TAMARIBA 横丁の視察

〈「ほしいも Rename」企画書作成〉

ほしいも Rename の企画書作成のために、ほしいも品評会の視察を通して生産者、問屋へのヒアリング調査をさらに行った。ほしいも Rename は来年度の4月に実施する予定だ。アンケート調査からわかった「干し芋」の田舎くさい、ダサいといったネガティブなイメージを払拭すべく、「干し芋」にとって代わる名前を学生中心に募集し、改元とともに新たな「干し芋」の名前を使っていこうという企画だ。私たちはこの企画なら、「ほしいもバトル in おもてまち商店街」よりも学生らしく、誰もが参加しやすいだろうと考えている。



第17回ほしいも品評会の視察



はばたく！茨大生での発表

●今後の展望

本プロジェクトはメンバーも少人数であるため、不安定な状況ではあるが、周囲の支援もあり少しずつ勢いをつけてきているところだ。今後はほしいも Rename の実行を経て、地域への関心の向上と併せて人員不足の解消ができれば良いと考えている。また、初期のメンバーが水戸から離れてしまうこともあり、今後の人材育成に関する問題も挙げられる。

ぴたっとひたちなかの名前のモチーフでもあり、マスコットでもあるひたちなか市が全国一位の加工生産を誇るタコのように、今後も様々な活動を通して地域のつながりを強めていきたい。